

2025/12/7「新しい関係」マタイ1:20-25

交読文・ミカ5:1-3 さ98 せ124 (72)

第二アドベントの礼拝を迎えました。皆さんにとって、2025年はどうのような1年だったでしょうか。日本は史上初めての女性総理が誕生し、関西では大阪万博が開催されました。教会は80周年を迎え、4回目の牧師の交代が決議されました。誰もが、新しい関係の中に神様が導かれています。

新しい関係

マリアとヨセフは許嫁でした。家庭は最小単位の社会である、と言います。特に夫婦は、赤の他人が自分たちの決断によって、ある時から一つ屋根の下で過ごすのです。当たり前のようにいて、これは隕石が大気圏に突入するような衝撃であると言えます。そこに、思いがけない秘密が露呈されることも、珍しいことではありません。マリアは正統な祭司の家系でした。年若く、親戚にはザカリヤとエリサベツという人望篤い信仰の先輩もいました。ヨセフもダビデの子孫でしたが「自分には勿体無いほどのお嫁さんだ」と文句なしで結婚を待ち望んでいたことでしょう。そのマリアから、妊娠しているという秘密を告げられた時、ヨセフの困惑と絶望がどれほどのものであったか、想像に難くありません。自分だけが犠牲になれば、と離縁を決意したヨセフでしたが、それはマリアへの侮辱であることは気づかなかったでしょう。

しかし、天使は夢の中で思いがけないことを告げました。それは「マリアを迎え入れなさい」という命令でした。その赤ちゃんは処女降誕という世界で一度だけの神の奇跡であり、産まれてくるのは、世の罪を贖う救い主であるというメッセージだったのです。なんとバカバカしい、マリアに都合の良い夢でしょう。現代に至るまで、そしておそらくこれからも、この夢は笑われ、疑われ続けるでしょう。でも、ヨセフはそれを信じました。そして、マリアを妻として迎え入れ、主イエスの父となりました。

マリアとヨセフが、和解と一致を回復した時間を想像します。そこに、新しい関係が生まれたことを思うのです。目立たないお腹の中には、イエス様がその真ん中にいてくださったことを思います。

私たちが求めている関係は、まさしくそのような新しい関係です。夫婦の関係、親子の关系到、抱えきれない秘密を持ちながら、裏切られたという憎しみや、理解されない孤独を持ちながら、間違った判断や、侮辱に甘んじて生きていかなければなりません。人間同士では、その問題を解決することはできません。イエス様がその真ん中に宿ってくださる時、新しい関係が修復されるのです。それは小さな家庭から、大きな社会に広がってゆくのです。

インマヌエルの信仰

聖書はこの奇跡を、イザヤの預言の成就であると語ります。前半の「おとめが身ごもって男の子を産む。」だけでなく、後半の「その名はインマヌエルと呼ばれる。」という預言に深い真実が込められています。その呼び名には、神が我々と共におられる、という意味があるからです。私たちの心に、イエス様をお迎えすることができているでしょうか。

賛美のうちに、祈りのうちに、奉仕の中に、交わりの中に、そして何より礼拝をささげる時に、私たちは神が共におられるということを、体験します。そして、やがてそれが、自分が思うよりも、はるかに大きな影響を及ぼす、恵みと慈しみであるということが、わかってくるのです。預言者イザヤは、700年先からも、きらめく救いの光を、告げたのです。